あなたにオススメ
部下を伸ばす上司 ダメにする上司
「ほめ育て」で成果を出す、9割部下の上司の特徴
ものづくり現場で生き残る、9割部下の上司の特徴
「ものづくり日本」の根幹を支える「職人」たちの知恵
「ものづくり日本」の根幹を支える「職人」たちの知恵
「ものづくり日本」の根幹を支える「職人」たちの知恵
Recommended by Outbrain

不妊手術を終えた猫に背中からカットを補修する＝11月2日、駅義田撮影

社会・カルチャー 猫ブームの光と陰

一斉不妊手術で減らせる野良猫と子猫の悲劇

駅義田 / ジャーナリスト 2016年12月7日

2008 1

不妊手術・現場ルポ（2）

猫の不妊手術ルポ第2回。今回は新潟市で見た手術の光景を紹介する。獣医師の腕がよく、通常であれば1匹あたり1０分もかからない。人間の身勝手な見方からしたならば、出産を終わらせることによる母体への負担や、大量に繁殖した野良猫の子猫が死んでいく不幸の連鎖の重さに比べれば、不妊手術を「かわいそう」とは言えないというのが筆者の思いだ。

新潟市の東のはずれ。新潟東港の公園にすみついた野良猫を集めた公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）の一斉不妊手術。1日半で59匹の猫に手術を施した。全身麻酔を受けて抗生剤やワクチンを打たれた後、不妊手術の証しである耳先の「V字カット」をされた猫たちに対して、獣医師さんが慣れた手つきで執刀にあたった。

オスは散弁、メスは１０分程度の手術

性別によって手術の過程は大きく異なる。オスの場合は局部周辺の毛を丁寧に剃った後、メスを使って乳丸（こうがん）の間に切り込みを入れ、中から精巣ニつをつまみ出して結合部をさっと切断する。最後にキズ薬と消毒薬を注入しておしまいだ。この間、せいぜい数分程度。

オスを手術台に安置＝駅義田撮影

一方、メスはすべての足をひもで手術台に固定する。バリカンで毛を剃られた下腹部一体に消毒薬を塗った後、数センチの傷をつけ、ピンセットや器具で押し広げる。専用器具を傷口に差し込み、子宮と卵巣を注意深くすべいと上げて結合部を縛り、手術を進んで丁寧に切断する。そして薬を注入した後、開けるのを使って傷口を閉じた結い合わせる。

メス猫が妊娠していた場合は堕胎を行うため、かなりの手間を要する。しかし、そうでなければ１０分もあれば手術が完了する。性別を問わず、大量の出血は見られなかった。

下腹部をバリカンで剃られるメス＝駅義田撮影

ひと晩麻酔させた後、元の場所に

手術が終わると背中に生理食塩水を注射し、水分補給をする。麻酔が効いている間、猫はずっと目を閉じているため、眼球の乾燥を防ぐ為の目薬をさす。そしてケージや捕獲器に戻して別の保管場所へ。麻酔が切れた後にひと晩麻酔させた後、元の場所に放す。

飼い猫の場合は、手術後に傷口をなめて開いたりしないようにするために、首の周りに「エリザベスカラー」と呼ばれる円錐台形の保護器具を一時的に巻きけけたり、遠既後のために抗生物質を処方したりすることもある。どうぶつ基金が手がける野良猫の手術ではそこまではしないが、手術後に元気でることは稀の稀だという。

麻酔をするとはいえ、痛いし、怖いだろうな、とは思う。手術中に足をピクッと振るわせる猫もいる。だが、出産を繰り返して ボロボロになった メス猫や、事故や病気で苦しむ野良猫の子猫をみかっと妊娠から すれば、そうした悲劇が無くなるのならこれで良いのでは、というのが偽らざる実感だ。

手術台に安置されたメス＝駅義田撮影

全国にむける協力病院

どうぶつ基金は１９８８年に設立され、当初は動物保護施設の運営にあたっていた。そして２００５年、寄付金や基金運用収益を活用し、猫の不妊手術を開始した。実業家を やめて 財団運営に専念した 佐上邦久氏が理事長を務め、ペラランの都医師である山口武雄氏が顧問として、手術の総指揮をとっている。

協力してくれる動物病院が全国に広がっており、こうした協力病院とともに各地で活動を行い、累計で約３万５０００の猫に不妊手術を無料で施した。愛媛県島の高まりなどを背景に、手術数はこと数年で急増している。次回は、どうぶつ基金の最近の活動についてリポートする。

＜次回は１２月１４日に掲載します＞

【経済プレミア・トップページはこちら】

【猫ブームの光と陰】

【（１）「子猫３００万円?」ネコノミクス活況の裏にあるもの】

【（２）都内殺処分２０３匹をゼロ公約し小池知事の本気度】

【（３）「猫の飼い主探し」ボランティア組みの限界】

【（４）猫ブームを裏で支えるペットオークションの実態】

【（５）売れ残った大猫がたどる悲しい運命を知っていますか】

【（６）飼い主探し目的も １０年で１００倍「猫カフェ」多様化】

【（７）多摩川に捨てられた猫たちがどうぐ先は】

【（８）捨てられて のたれ死ぬ野良猫たちの悲惨な最期】

【（９）野良猫の不妊手術は本当に「かわいそう」なのか？】

駅義田
ジャーナリスト
１９６５年、山口県生まれ。８８年に防衛庁防衛庁に入れ。会社や電機・通信などの業界取材を担当した。２００６年、米国現在ブルームバーグ・ニュースに移ら、１７関連の記者・エディターなどを務めた後、１４年に論社にマフリーに。

関連記事
会見メモ打ちが化させたか? 記者たちの「笑っふみ力」
認知レアリ ジ"を嫌った赤ゼリ ブ女性のいらだち
働く母親は上司と同僚にいつまで謝り続けるのか
物語も補色もとがらず「美語パズ」の功罪論、山崎正和
小池都知事でどうなる東京メトロ1兆円株式上場

社会・カルチャー
連載 猫ブームの光と陰
前の回を読む 次の回を読む
経済プレミアのトップへ

注目コンテンツ

powered by CHENGE

あなたにオススメ（レコメンドシステムによる記事選択）
Recommended by Outbrain

捨てレアリ"を嫌った赤ゼリ ブ女性のいらだち
恋愛観で酒屋が一審敗 「運用を怠ったとは言えない」と
バイトよりは給料が低い「正社員・正規職員」のワナ
月額1,000円高性能スマホ「トーク」が登場
働く母親は上司と同僚にいつまで謝り続けるのか
年配アップ方たちに知っておきたい「労働法規」のワナ

コメント0件 並び替え 最新
コメントを追加...
Facebook Comments Plugin
※本コメント機能はFacebook Ireland Limitedによって提供されており、この機能によって生じた損害に対して毎日新聞社は一切の責任を負いません。また、投稿は利用規約に同意したものとみなします。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表の無断転載を禁じます。動作確認環境推奨ブラウザ・画面サイズ
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.

あなたにオススメ

首都圏で通勤が一番楽？「運河を眺めるあの路線」

山形の田舎町で１２万人集客三セク温泉の経営改革

「年金減額」高齢者の困窮は国会議員に伝わったか

養殖サケをブランド化 宮城県女川町「銀王」の飛躍

Recommended by outbrain

不妊手術を終えた猫に背中から水分を補給する＝１１月２５日、駅義則撮影

社会・カルチャー 猫ブームの光と陰

一斉不妊手術で減らせる野良猫と子猫の悲劇

駅義則 / ジャーナリスト　2016年12月7日

2008 1

不妊手術・現場ルポ（2）

猫の不妊手術リポート、今回は新潟市で見た手術の光景を紹介する。獣医師の腕がよく、通常であれば１匹あたり１０分もかからない。人間の身勝手な見方かもしれないが、出産を続けることによる母体への負担や、大量に繁殖した野良猫の子猫が死んでいく不幸の連鎖の重さに比べれば、不妊手術を「かわいそう」とは言えないというのが筆者の思いだ。

新潟市の東のはずれ、新潟東港の公園にすみついた野良猫を集めた公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦…

続きを読む　ログインして読む

有料記事　残り 1487文字（全文 1710文字）

今月はあと5ページまでご覧いただけます
無料会員のご登録で有料記事、プレミアコンテンツを合わせて月間10ページまで閲覧できます。
有料会員はすべての記事を閲覧でき初月無料です。詳しくはこちら

デジタル毎日 いますぐ読み放題 3,200円が 初月無料
独自の調査報道、投資情報が人気 経済プレミア

駅義則
ジャーナリスト
１９６５年、山口県生まれ。８８年に時事通信社に入社。金融や電機・通信などの業界取材を担当した。２００６年、米通信社ブルームバーグ・ニュースに移り、ＩＴ関連の記者・エディターなどを務めた後、１４年に退社してフリーに。

関連記事
- 会見メモ打ちが劣化させた!? 記者たちの「突っ込み力」
- 超セレブ“ヒラリー”を嫌った非セレブ女性のいらだち
- 働く母親は上司と同僚にいつまで謝り続けるのか
- 物価も賃金も上がらず「黒田バズーカ空砲説」は確定か
- 小池都知事でどうなる東京メトロ１兆円株式上場

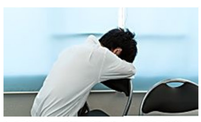
社会・カルチャー

連載　猫ブームの光と陰
前の回を読む　次の回を読む

経済プレミアのトップへ

あなたにオススメ（レコメンドシステムによる記事選択）
Recommended by outbrain

物価も賃金も上がらず「黒田バズーカ空砲説」は確定か


過重労働で追い詰められた社員が退職を申し出たとき

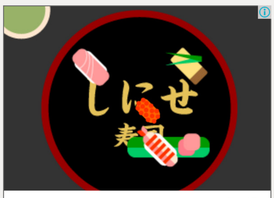
住みたい街で吉祥寺を抜いた「恵比寿」１位の秘密

若者が国民年金保険料を払った方がいい理由

上司の聞き方次第で部下の技術力とやる気は高まる

「ローン返済・現金確保」で年金減額に備えよう

新聞購読 お申し込み +500円で、デジタルも 愛読者セット
デジタル版 お申し込み PC、スマホで デジタル毎日



ビジネス向けの Gmail

キーワードで探す

アクセスランキング
1 愛人に１億円を貢いだ元銀行員の“華麗な１０年”
2 北陸新幹線グランクラスは「はくたか」がオススメ
3 善光寺と軽井沢も驚いた 北陸新幹線の集客パワー
4 長時間労働に目を光らせる労働局隠密部隊「かとく」
5 ビジュアルと物語性「君の名は。」現象の読み解き方

イチ押しコラム

下流化ニッポンの処方箋
「４０代下流」をこれ以上増やしてはいけない理由
埼玉県内の大手スーパーでレジ打ちの仕事をしている陽子さん（４３歳・仮名）は、低い賃金ながら一生懸命働いています。ここ数年、県の最…

知ってトクするモバイルライフ
「格安スマホとドローンセット販売」楽天の新戦略
「格安スマホ」という言葉が表すように、大手通信事業者から回線を借りるＭＶＮＯは、低価格な端末、通信回線を利用者に提供するのが一般…

世界透視術
朴大統領醜聞に火をつけたのは中国か米ＣＩＡか
韓国では朴槿恵（パク・クネ）大統領の退陣を求める世論が渦巻いている。大統領の古い友人、崔順実(チェ・スンシル)被告一族らへの利益…

育児サバイバル
活躍アピール「自称イクメン」に女性がいらつく理由
２０１６年は、「イクメン」をめぐるさまざまな議論がありました。宮崎謙介元衆議院議員が１カ月の育児休業を取得する意向を示し、「イク…

メディア万華鏡
会見メモ打ちが劣化させた!? 記者たちの「突っ込み力」
暑いころの話になるが、８月６日の毎日新聞朝刊１面（東京本社版）を見て驚いた。生前退位について８月８日に天皇陛下のビデオメッセージ…

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.